

独立行政法人国立国語研究所「病院の言葉」委員会 第10回実務委員会
議事要旨

1. 日時 平成20年12月25日(木) 14:30~17:30
2. 場所 国立国語研究所大会議室
3. 出席者 杉戸委員長, 稲葉委員, 生出委員, 柴田委員, 関根委員, 矢吹委員, 吉山委員, 徳重委員, 相澤委員, 吉岡委員, 田中委員

4. 会議の概要

(1) 第9回「病院の言葉」委員会実務委員会の記録の確認

- ・第9回実務委員会の議事録と議事要旨を確認した。

(2) 「『病院の言葉』を分かりやすくする提案」(中間報告)に寄せられた意見と対応

- ・寄せられた意見について, 説明ののち討議が行われ, 最終報告書作成に向けた具体的な検討・修正が行われた。特に次のようなことが論点となった。

○生検の関連語「病理」

病理診断科が標榜診療科になることにより, 認知率が上がるとすれば, 類型Bとすべきであること

○グループホーム

現在は認知症患者のものが一般的であるが, 歴史的な流れも記述すべきであること

○膠原病

[まずこれだけは]では「免疫」と「炎症」という言葉を使わずに説明をし, [時間をかけてじっくりと]で, これらの語句を説明すること

○MRIとPET

- ・MRIとCTを比較した表について, 比較の表は必要であり, 比較する内容を適切なものにする
- ・MRI, CT, PETの記述について, 医学の専門的見地と, 患者にとっての分かりやすさの両方を勘案して, 適切に記述すること

(3) 最終報告および手引本について

- ・最終報告の発表の日程を確認し, 報告の方法などについて検討した。
- ・市販本の刊行に向けて日程の確認と, 校閲作業の依頼を行った。

5. 討議における主な意見

①中間報告に寄せられた意見と対応

○生検の関連語「病理」

- ・「病理」は, 今後の普及を考えて, 類型Cとするべきではないか。

- ・類型Cは、特別な言葉なので、ほかの言葉を差し置いて、関連語の「病理」を類型Cにするのは抵抗がある。
- ・「病理」は、今後認知率が上がることを想定して、類型Bとするのがよい。

○グループホーム

- ・見出し語の後に、「認知症患者の場合を例に」と入れてはどうか。

○膠原病

- ・[まずこれだけは]の冒頭で、いきなり「免疫」が出てきて、さらに「炎症」で説明するのはよくない。この説明をすべてやめて、「自分のからだのある部分を敵と間違えて激しい反応を全身に起こしてしまう病気」に書き換えればどうか。
- ・[時間をかけてじっくりと]のどこかで、この語は「免疫」と「炎症」について説明しないと理解が進まないことを伝える必要がある。

○MRI, PET

- ・「輪切りにしたような鮮明な映像」とあるが、断面画像もあるので、「断面画像が得られる」に直した方がよい。
- ・「断面画像」が分かりにくいので「輪切り」にしたのではなかったか。
- ・「輪切り」という表現が分かりやすいのであれば、「輪切りだけではなく、いろいろな方向・角度から断面での鮮明な映像が得られます」にしたらどうか。
- ・MRIとCTの比較表が分かりやすいが、不正確になる面もある。この表は、掲載すべきか、掲載しない方がよいか。
- ・比較する内容を手直しして、表現にも手を入れて、掲載する方がよい。
- ・PET検査については、関連学会のパンフレットなども参考にした方がよい。

②最終報告の構成案

- ・中間報告後どうなったのかを気にしている人がいるので、最終報告も、何らかの報道発表をした方がよいのではないか。
- ・「病院の言葉」という表題だが、診療所の人たちには、「病院」と限定することに抵抗があるようだ。
- ・「はじめに」に当たるところで、「病院の言葉」には診療所の言葉なども含むことを書こうと思う。

③市販本の編集・刊行について

- ・初校ゲラを配付するので、1月14日までに校正をお願いしたい。

以上